

## 第1問

### <出題意図>

問題の出典は、石原真衣「先住民という記号ー日本のダイバーシティ推進における課題と展望」石原真衣編著『記号化される先住民／女性／子ども』（青土社、2022年）である。問題文では、ダイバーシティを推進したとしても人種差別の問題が必ずしも解消されるわけではないことが指摘され、これら二つを混同してしまう点について問題視している。

第1問は、すべての設問において、受験者が社会の諸問題をテーマとした課題文の内容を文脈とともに正確に読み取ることができているか、そして筆者の議論を踏まえながら自分の考えを論理的に組み立て、根拠に基づいて解答することができているかについて、これらの「思考力・判断力・表現力」がどのくらい備わっているのかを問う（問1～問5）。

そのうえで、国際社会や地域社会が抱える課題に関心を持ち、かつその解決に意欲を持っているかどうか、受験者の「関心・意欲」を問う（問5）。

### <解答例>

#### 問1（20点）

異なる文化を持つ人びとや多様性を理解しようということ。（26字）

#### 問2（30点）

[ A ]（15点）：符号

[ B ]（15点）：記号

#### 問3（50点）

社会の中で「先住民」に対して積極的な意味づけがなされることにより、これまで先住民が負わされてきた負のイメージが払拭され、先住民自身が自らの出自や歴史を肯定的に受け止めることが可能となるということ。（97字）

#### 問4（20点）

①（先住民がヘイトなどの排外主義的攻撃を受けること。）

#### 問5（80点）

解答例省略

## 第2問

### <解答例>

#### 問1 (20点)

難しい決断をしようとしている場合には、自分自身について三人称で語ることで、自分の考えを脱線させてしまいそうになる感情を制御することができるし、自分の問題に対するもっと賢明な解決策を見つけることができる。

#### 問2 (30点)

intellectual humility, acknowledgement of others' viewpoints, and search for compromise

#### 問3 (30点)

問題となるのは、個人的な選択を行うときには、我々は感情の影響を受けすぎてしまい、考えが鈍ってしまって、論点を大局的に見ることができなくなるのだと思われる。

#### 問4 (40点)

実験の参加者に一か月間自分の経験した状況を日記に書かせたが、半分の参加者には三人称で、もう半分の参加者には一人称で書くように指示し、実験の最初と最後に賢明な推論がどの程度できるかを測定した。

#### 問5 (80点)

When I run into a stressful situation, I take a break from thinking by doing something active. When the weather is fine, I hop on my bicycle and take a ride outside of my neighborhood. Riding in an unfamiliar area forces me to focus on where I am going instead of on my troubles. When it is too hot or too wet to ride a bicycle, I go to a batting center. In the batting cage, it is hard to think about anything other than the pitch coming at me. My mind is completely focused on the task. And, when my bat connects with a ball, it sounds and feels great. For me, physical activity is an important step in facing a stressful situation. It helps quiet my mind and gives me confidence to deal with my problems.